



SoftBank C&S

働き方改革に必要なIT基盤の条件とは？ (その2：ユーザー編)



働き方改革を進めていくうえで、ITが果たす役割は大きい。特に、2017年3月に政府が発表した「働き方改革実行計画」に記載された9つの検討テーマのうち「柔軟な働き方がしやすい環境整備」においては、ITインフラの整備が必要欠だ。では、働き方改革に適したIT基盤の条件とはどのようなものなのか？ 今回は、ユーザーの立場にたったときに、どんなことが必要なのかを考えていく。

ノートPCだけでなく、 スマホやタブレットも業務に活用

モバイル端末のビジネス活用が叫ばれるようになって久しい。2017年8月にソフトバンクコマース&サービスとZDNet Japanが実施した働き方改革に関するアンケート調査において、「業務で活用しているデバイスは何ですか」という設問をしたところ、「ノートPC」（87.0％）に加え、「スマートフォン」は半数を超える53.2％、「タブレット」も1/3を超える36.0％という結果となった。いまや、スマホやタブレットを業務に活用するのが当たり前になったと言えるのだ。

ユーザーの立場に立って考えると、たとえ会社が認めていなくとも、使い慣れた個人所有の端末を利用したい、最新の機種を使いたいというBYODのニーズも高いであろう。ユーザーが望むどのようなデバイスでも、管理者が手間をかけることなくセキュリティやガバナメントを強化できる仕組みが望まれていると言えるだろう。

セキュリティやガバナンスと ユーザーの利便性を両立させる

では、こうした多様なデバイスを社外から安全に使うために、IT担当者はどのような苦勞をしているのか。ソフトバンクコマース&サービスとZDNet Japanが同時期に実施したセキュリティに関するアンケート調査から見てみよう。「セキュリティ対策を強化、進める上で悩みのネタは何ですか」という設問の解答が下記のグラフだ。

「どこまで対策をすればよいかわからない、底なし沼」（54.3％）、「セキュリティにかかる費用の適正額がわからない」（39.1％）とセキュリティ対策そのものに関わる悩みが1位、2位となった。注目すべきは、これらに続いて、「現場が従ってくれない。教育が行き届かない。ITリテラシの浸透不足」（30.9％）、「現場から使いにくくなった・遅いなど文句を言われた。利便性が犠牲になる」（35.3％）と、ユーザー教育の難しさやユーザーの利便性にかかわる悩みも大きな割合を占めていることだ。セキュリティを厳密にすることで、ユーザーにとって操作が難しくなったり、利便性が損なわれたりすることが懸念材料となっていると推察できる。ユーザーの利便性・操作性と、セキュリティやガバナンスの強化を両立できる仕組みにすることが、デバイスをスムーズに現場に浸透させる大きなポイントだと言えるのだ。

図1：業務で活用しているデバイスは何ですか

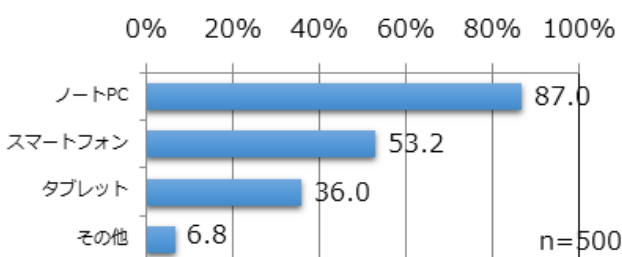
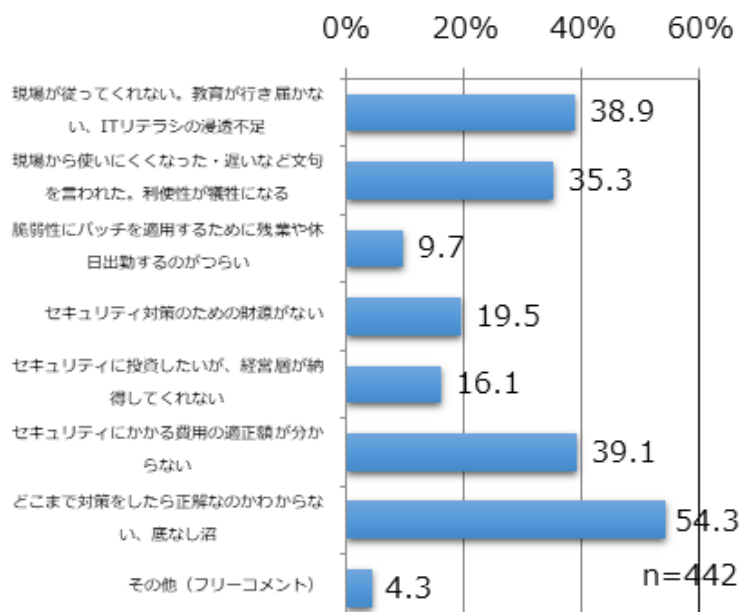
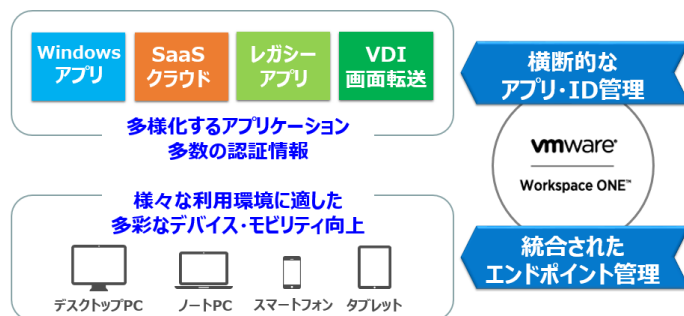


図2：セキュリティ対策を強化、進める上で悩みのネタは何ですか。



ユーザーの利便性・操作性を高め、労働生産性を向上 VMware Workspace ONE —— 3つのユーザーメリット

社外や自宅で社内システムやSaaSに接続して業務を行うには、セキュリティやコンプライアンスに配慮する必要があります。しかし、操作性が煩雑で、ユーザーの利便性が損なわれるようでは、業務の生産を上げるどころか、かえって業務スピードの停滞を招いてしまいます。VMware Workspace ONEなら、さまざまなアプリケーションにシングルサインオンでログインして快適な業務が行えるなど、利用者にとってもさまざまなメリットが生まれます。



好きなデバイスで、業務ができる

Workspace ONE は、Windows、macOS、Android、iOSなど、さまざまなOSに対応しています。利用者個人が所有するデバイスであっても、利用者とデバイスを紐付けて管理するため、スムーズな導入が可能です。

Workspace ONEをデバイスにインストールすることで、いつでも、どこからでも、さまざまなアプリケーションに安全にアクセスできます。いったんネットワークに接続して認証されれば、ネットワークが不安定な場所であってもオフラインで快適に作業することができます。

シングル サインオンで認証も手軽に

SaaSなどを利用する際には、通常社内用とは別のパスワードが必要となり、SaaSごとに複数のIDやパスワードを覚えなければなりません。Workspace ONEはシングル サインオン機能を備えているため、いったん認証されるとSaaSなどの他のアプリへも認証不要でアクセスできます。また、定期的なパスワードの変更の煩わしさも最小限ですみます。

さらに、指紋などの生体認証にも対応しており、よりスピーディーなログインが可能になります。

セルフサービスで、すぐにアプリが使える

Windowsアプリ、Webアプリ、モバイルアプリなど、さまざまなアプリケーションに対応しています。利用者が使用できるアプリケーションの一覧が「カタログ」として表示され、利用者自身が自由にアプリケーションを追加できます。「使用してよいアプリ」「使用不可のアプリ」などをいちいち覚える必要がなく、IT管理者にとってもシャドーITに対する不安がなくなります。

場所やデバイスに縛られない、より柔軟な働き方を実現するために

TechRepublic Japan編集長 田中好伸

労働人口の減少を背景に、隙間時間の活用などにより生産性を高めたり、結婚・子育て・介護などによる離職者を戦力化する企業も増えてきました。いまやすべての企業において、働き方改革は避けて通ることのできない課題になっています。

具体的な取り組みとして、多くの企業が社内システムやSaaSに社外から安全にアクセスできる仕組みを整備しようとしています。従来は、既存の運用体制に社外からのアクセスをどう組み入れるかという発想だったため、管理が煩雑化し、ユーザーの利便性が損なわれることが多くありました。しかしこれからは、ユーザーが場所やデバイスを問わず、“いつでもどこでも”快適に仕事ができ、管理者にとっても運用負荷の少ない環境が求められます。

これを可能にするソリューションの一つが、VMware Workspace ONE で、セキュリティやコンプライアンスの強化と、利用者の快適な操作性とを両立させています。また、Windows 10へ移行する際に、Windows 7以前のアプリケーションが使用できることもアプリの延命という観点からメリットの一つと言えるでしょう。

 SoftBank C&S

ソフトバンク コマース&サービス株式会社

ICT事業本部 MD本部 プラットフォーム販売推進統括部 仮想化クラウド販売推進室

ソフトバンクC&SがおすすめするVMwareソリューション
<http://licensecounter.jp/vmware/>